

地球環境との調和をめざして

SIIグループのグリーン・プラン



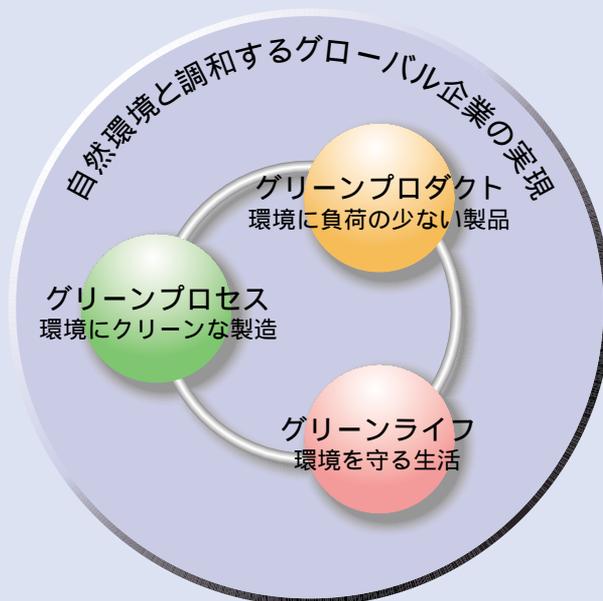
全ての生命と共に 緑の地球と調和する企業の実現をめざします。

21世紀を間近にひかえ、地球と人類の「持続可能な発展」(Sustainable Development)が1992年リオ地球サミット以来、世界の合い言葉となっています。それを確かなものとするために、温室効果ガスをはじめ、環境負荷の低減と循環型社会の実現が急務であることは、周知の通りです。

SIIグループでは、1993年4月環境に関するボランタリープラン(企業の自主的環境保全行動計画)として、3つのグリーン「グリーンプロセス、グリーンプロダクト、グリーンライフ」を象徴する「SIIグリーンプラン」を策定し、事業活動の全ての領域(製品の開発、製造、販売、サービス等)において、全員が環境保全活動を実践し成果をあげてきました。そして私達は21世紀のビジョンとして、広く家庭や社会各層にも開かれた活動を通して、一流の環境マインドカンパニーを目指します。その実現のために、相互に関連する4つの柱「グリーンマーケットへの積極的な製品提供」、「ゼロ・エミッション(最終廃棄物ゼロ)の早期達成」、「省エネルギーから小エネルギー実現(抜本的省エネルギー)」、「グリーンライフ活動の日常定着化」を築きながら一人一人の行動と成果をさらに向上させていきます。

■環境保全活動のあゆみ

- 88年 12月 「フロン対策推進委員会」発足
- 92年 8月 特定フロン全廃
- 92年 12月 環境対策推進室 設立
- 93年 4月 環境保全行動計画「グリーンプラン」策定 通産省提出
- 93年 8月 古紙回収車「クリーンアロー号」導入
- 93年 11月 トリクロロエタン全廃
- 94年 4月 エネルギー、廃棄物、紙資源削減の月次管理スタート
- 95年 8月 経営幹部会にて環境管理システム導入キックオフ(環境ISO14001対応)
- 96年 8月 グリーンプランの改定(環境保全活動報告も含む)
- 96年 10月 SIIグループ京葉地区6事業所古紙リサイクル活動
「リサイクル推進協議会会長賞受賞」
- 96年 11月 高塚事業所(千葉県松戸市)ISO14001 認証取得
- 97年 1月 セイコー精機(株)(千葉県習志野市)ISO14001 認証取得
- 97年 3月 宮久保事業所(千葉県市川市)ISO14001 認証取得
- 97年 4月 秋田プレシジョン(株)(秋田県大曲市)ISO14001 認証取得
- 97年 4月 盛岡セイコー工業(株)(岩手県岩手郡)ISO14001 認証取得
- 97年 5月 Seiko Instruments Singapore Pte. Ltd. ISO14001 認証取得
- 97年 12月 アイドリング・ストップキャンペーン実施(啓発普及用ステッカー貼付け)
- 98年 2月 (株)SIIクオーツテクノ(栃木県栃木市)ISO14001 認証取得
- 98年 2月 SII化学物質ガイドマニュアル作成・配布
- 98年 6月 秋田プレシジョン(株) 秋田県「環境大賞」受賞
- 98年 6月 盛岡セイコー工業(株) 岩手県「環境保全優良事業所」受賞
- 98年 8月 小山事業所(静岡県駿東郡)ISO14001 認証取得
- 99年 1月 秋田精密電子工業(株)(秋田県大曲市)ISO14001 認証取得
- 99年 2月 (株)SIIマイクロパーツ(宮城県仙台市)ISO14001 認証取得
- 99年 3月 大野事業所(千葉県市川市)ISO14001 認証取得
- 99年 3月 ナステック工業(株)(栃木県那須郡)ISO14001 認証取得
- 99年 3月 国内主要全11製造拠点ISO14001 認証取得完了
- 99年 3月 SIIグループ内部環境監査員養成研修 修了者183名(累積)
- 99年 4月 Asian Electronic Technology Pte. Ltd. ISO14001 認証取得



| | |
|----------------------------------|----|
| 地球と調和する企業 | |
| 環境保全活動のあゆみ | 1 |
| 環境方針／推進組織／環境マネジメントシステム／環境監査のしくみ | 2 |
| 環境保全活動の取り組み | |
| 環境教育／化学物質管理 | 3 |
| グリーンプロセス～環境にクリーンな製造～ | 4 |
| グリーンプロダクト～環境に負荷の少ない製品～ | 5 |
| グリーンライフ～環境を守る企業の生活～ | 6 |
| ～環境を守る市民の生活～ | 7 |
| 環境関連サービス／環境保全活動の社内表彰制度／環境広報と啓発活動 | 8 |
| 環境保全の重点取り組み課題と行動計画・実績 | 9 |
| 会社概要 | 10 |

SIIグループ環境方針

環境理念

SIIは良き企業市民として、全ての生命・社会と共存できる環境調和型のグローバル企業をめざし、企業活動のあらゆる面で環境の保全と継続的向上に努める。

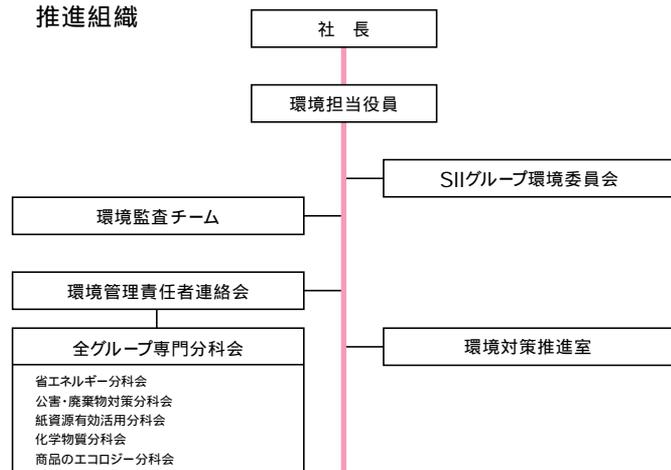
環境活動指針

1. 環境保全活動を推進させる組織と関連文書を整備し、管理の向上を図る。
2. 環境関連の法規制、協定等を遵守し、環境汚染の未然防止を図る。
3. 環境負荷を継続的に低減するために次の項目に取り組む。
 - (1) 環境保全に適合した製品・サービスを提供する。
 - (2) 省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に寄与する。
 - (3) ゼロ・エミッションをめざして、省資源・リサイクル・廃棄物の削減を推進する。
 - (4) ひとりひとりが身近な生活を通して環境保全に努める。
4. 化学物質の管理向上と使用抑制を図る。
5. 内部環境監査を実施し、自主管理の向上を図る。
6. 環境に関する社会活動により、社会に貢献する。
7. 全社員に環境教育、社内広報活動を実施し、本環境方針の理解と環境に関する意識向上を図る。また、事業所の環境方針は事業所毎に設定する。
8. 環境管理の実施状況について、必要に応じて外部に情報公開する。

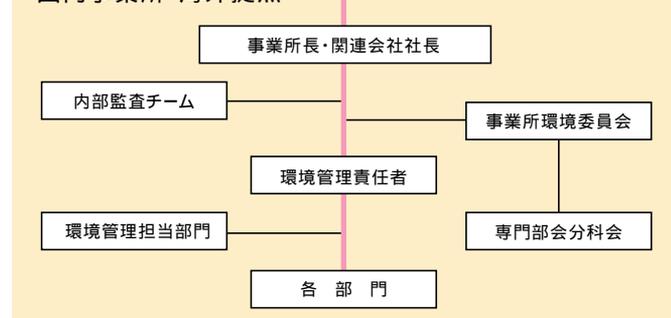
1999年6月
セイコーインスツルメンツ株式会社
代表取締役社長

服部 純一

推進組織

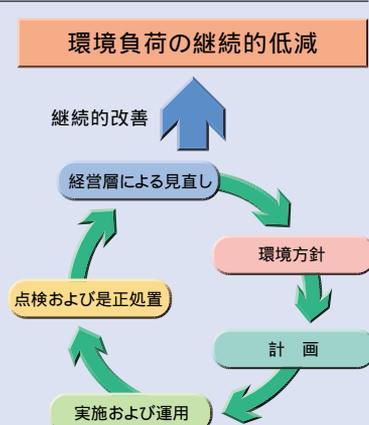


国内事業所・海外拠点



環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム ISO14001 は、持続可能な発展に向かって、環境保全と経済性を両立させるために有効なマネジメントツールです。グループの環境方針をベースに、全事業所がみずから定めた目標をシステムチェックに達成しながら環境負荷の継続的減を進めています。



環境監査のしくみ

SIIグループの環境監査体制は、各事業所が独自に行う「内部環境監査」と本社が各事業所に対して定期的に行う「総合環境監査」の二重構造をとっています。また、各事業所は第3者認証機関による審査・認証を受けることを原則にしています。



内部環境監査

各事業所の「内部環境監査」は、自らが環境マネジメントシステム(PDCA)、遵法性(各種法規制)、自主的な取組(環境管理計画)について監査を定期的実施し、経営層へ監査結果を報告し、「トップマネジメントによる環境方針、目標および環境マネジメントシステムの見直し」を反映して、環境保全活動の継続的改善を進めています。

総合環境監査

本社が行う「総合環境監査」は、SIIグループの環境リスクの未然防止、環境パフォーマンス向上を目的に全事業所にわたって環境管理活動のレベルを上げる監査とアドバイスをを行っています。



SIIグループの環境保全活動の取り組み

環境教育

環境保全活動を継続的に推進するためには、社員一人ひとりが正しい知識を身につけ、積極的に環境問題に取り組むことが重要です。社員の環境意識向上や環境方針の理解と実践を目的とした「環境教育」を実施しています。種類として、一般、専門教育、及び環境監査員教育を設定しています。現時点(累積)で、環境専門教育の修了者は259名、環境監査員は、183名を数え、各事業所の内部監査員として環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的改善のために活躍しています。

一般教育

| 種類 | 対象 | 教育内容 |
|---------------------|------|------------------------|
| 地球環境問題とSIIグループの取り組み | 新入社員 | SIIグループの環境対策について |
| 環境概論とISO14001の理解 | 中堅社員 | 環境の各論や管理技術 |
| システムとパフォーマンス向上 | 管理者 | 内外の環境動向 パフォーマンス向上方策 |

専門教育

| 種類 | 対象 | 教育内容 |
|---------------------|------------------|-------------------------------|
| 化学物質取り扱い 廃棄物管理 | 取扱従事者 環境設備運転者 | 化学物質の概要と管理、水質・大気汚染防止、廃棄物関連の知識 |
| 省エネルギー | 生産・製造技術者 | 物づくりにおける省エネ技術対策や他社動向 |
| 製品環境アセスメント | 開発担当者 | 商品の環境負荷を改善するための手法、他社事例 |
| 危険物取り扱い 高圧ガス取り扱い | 取扱従事者 資格者 | 危険物・高圧ガスの保安・監督に関するポイント |

監査員教育

| 種類 | 対象 | 教育内容 |
|-------|------------|-------------------------------|
| 内部監査員 | 各事業所の専任監査員 | ISO14001の内部監査を進めるうえで必要な知識・スキル |

化学物質管理

SIIグループでは、環境方針に掲げている「化学物質(有害物質、塩素系溶剤等)の管理向上と使用抑制を図る」を効率的に実施していくために、あらゆる領域で誰でもが使える「化学物質ガイドマニュアル」を用意しています。既に、ISO14001に準拠した「化学物質管理規定」を設定した事業所は、本マニュアルを併用して効果をあげています。

化学物質ガイドマニュアル 3-1

この「SII化学物質ガイドマニュアル」により、「使用禁止物質」、「使用・排出を削減すべき物質」、「使用・排出を抑制すべき物質」の3分類基準で運用・管理しています。特に、新規化学物質の導入は、慎重に行うことから事業所毎の環境委員会で承認を行うステップを設定しています。

MSDS(化学物質安全性データシート) 3-2

製品や製造で用いられる物質の環境・安全性について、データを蓄積しイントラネットに掲載し活用しています。

※Material Safety Data Sheet

PRTR(環境汚染物質排出移動登録)

工場などが化学物質の使用量・排出量を把握し、その結果を情報公開するもので、99年7月法制化されました。SIIグループでは、法律にききかたけ、PRTRに該当する化学物質を「SII化学物質ガイドマニュアル」の「化学物質と各法規制等とのマトリックス表」で設定し、対応しています。

※Pollutant Release and Transfer Register



内部環境監査員養成研修



3-1

| MSDSの概要 | |
|--|---|
| <p>ベンゼン</p> <p>危険物(第2類) 第2.1項 引火性液体</p> <p>※ 引火性液体 ※ 引火性固体 ※ 燃焼性液体 ※ 燃焼性固体 ※ 腐食性液体 ※ 腐食性固体 ※ 環境有害物質 ※ 環境有害物質 ※ 環境有害物質</p> | <p>※ 引火性液体 ※ 引火性固体 ※ 燃焼性液体 ※ 燃焼性固体 ※ 腐食性液体 ※ 腐食性固体 ※ 環境有害物質 ※ 環境有害物質 ※ 環境有害物質</p> |

3-2

グリーンプロセス ～環境にクリーンな製造～

「ゼロ・エミッション」に向けて

事業所から排出される廃棄物の量を減らすだけでなく、廃棄物を新たな他の分野の原料に活用し、廃棄物ゼロの資源循環型企業の実現をめざしています。現在、古紙やプラスチック、廃油・廃液・汚泥の再資源化を進め、ゼロ・エミッションの早期達成に力を入れています。

プラスチックの減量化・リサイクル 4-1

時計部品は微小のため、射出成形時90%以上の材料がランナー(湯道のこと)として失われてしまいます。このランナーに着目し、ランナーの小型化、取り個数のアップ(4ヶ取り⇒8ヶ取り⇒16ヶ取り)ランナーの再生利用率を75%まで高めるなどの工夫をしました。廃材削減の他にプラスチック材料の使用量を27.4%も減らし、経済効果をあげました。

廃油のリサイクル 4-2

自動機加工の工程で発生する切粉を、鉄・ステンレス・アルミ用の切粉処理装置で油を自動分離・細かく切断・回収し、その切削油を再利用しています。この再利用により必要な切削油の40%がまかなわれており、資源の有効活用、及び廃棄物削減に効果を上げています。

塩素系溶剤の全廃

オゾン層破壊物質の早期全廃(特定7071992年8月、トリクロロエタン1993年11月)に続き、現在塩素系溶剤の自主的全廃を1999年末目標で取り組んでいます。

※98年度実績45トン(93年度比 △71%)

エッチング廃液(塩化第二鉄)のリサイクル 4-3

基板のエッチング工程で発生する塩化第二鉄は、資源として再活用してくれる業者を開拓して、事業所の産業廃棄物削減、処理費用の削減に効果をあげています。

梱包材の減量化・リサイクル 4-4

梱包材には無害で、リサイクル可能な材料を使い、コンパクトで長期使用にも耐える構造を追求しています。

半導体製造工程の排水処理 4-5

半導体製造工程から外部に出す排水は、無害化の薬品処理を行っています。その薬品の使用量も削減に努めています。

排水のリサイクル 4-6

工場排水を純水として再利用するために、逆浸透膜を用いた排水リサイクルシステムを実現し、時計部品の洗浄や銅貼り基板のエッチング工程の純水として使用しています。1日150トンもの純水に再生、濁水対策や水資源の有効活用にも役立っています。

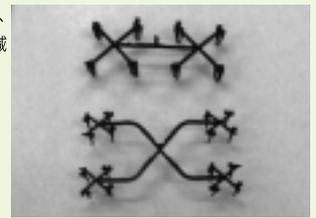
「省エネ⇒小エネ」に向けて

製造プロセスに関する環境保全の考え方として、製造システムや工場設備など、ムダなエネルギーを「省く」ことから最適最小エネルギーの「小」への活動を進めています。

クリーンルームの省エネルギー 4-7

クリーンな環境を必要とする電子部品の品質と製造歩留りを維持させながら、クリーンルームの電力使用量の大幅な削減をめざして、省エネルギーにチャレンジしています。

4-1 ランナーの改良前(上)、改良後(下)取り個数倍増・廃材削減



4-2 切粉投入口。2階の職場で発生した切粉を投入し、1階まで落す。



切粉処理装置。
1階、2階の職場で発生した切粉の油分離と切断を行う。



切粉回収ヤード。
切粉処理装置で処理された切粉がシュートを通して切粉回収ヤードに集まってくる。



4-3



4-4



4-5



4-6 排水のろ過装置。
1日150トンの水がリサイクルされる



4-7

グリーンプロダクト ～環境に負荷の少ない製品～

「環境配慮型製品づくり」に向けて

廃棄物問題(環境汚染・処分場不足)や資源枯渇化(大量生産・大量消費)などにより、環境への負荷の小さい商品の優先的購入の時代がやってきました。SIIグループでは、省エネ省資源、特定難燃剤等有害物質を含まない製品を提供しています。

エコデザイン(製品環境アセスメント)

SIIグループでは、環境負荷の小さいものづくりのため、エコデザインのしくみとツールを整備しています。製品設計の段階で環境レビューを実施し、製品のライフサイクルにわたって環境保全と安全についてチェックをしています。

熱発電ウォッチ 5-1

熱発電ウォッチ「サーミック」は人の腕から放出される熱を利用し、この熱エネルギーを電気エネルギーに変換して動く時計です。発電の原理は「ゼーベック効果」*を応用したもので、ここにはSIIの様々な技術が統合されています。

*異なる金属の二つの接点の間に温度差があるとき、その接点間に電圧が発生する現象。

電源用IC 5-2

携帯電話やPHS、携帯情報端末に使用されています。常に、小型化・省電力を追求しています。

ガスヒートポンプ用コンプレッサ 5-3

自動車用カーエアコン用コンプレッサ類の軽小軽量化設計と精密加工技術から生まれたオフィスや店舗などの中規模空調機器向けのガスヒートポンプ用コンプレッサで、地球温暖化対策に最適化した省エネ・クリーン型の製品として顧客に満足いただいています。

プラスチックの材質表示 5-4

再生資源の利用促進のために、プラスチックへの材質表示に関しては、25g以上のプラスチック成形品には材質表示をしています。

省エネ型携帯パソコン 5-5

金融業界の営業職員の方が外出先で行う営業活動を支援する携帯パソコンです。世界で初の反射型カラーLCDと高性能低消費電力型で、5～10時間の画期的な電池寿命を実現しています。環境を配慮した省エネ型で、携帯性に優れた商品です。

カラープリンタ 5-6

カラープリンタ「Color Point 1720RS」は、国際エネルギースタープログラム登録商品で待機消費電力の基準をクリアしています。旧商品に比べ待機消費電力を約20w削減しています。

ウェアラブルPC「ラピュータ」 5-7

情報端末は、持ち歩く時代から身につけて行動する時代へ、腕時計型でパソコンに連携し、個人情報や地図などの画像データを共有できる携帯情報端末です。身につけていつでも使える省資源超小型のウェアラブルパーソナルコンピュータです。

超小型表面実装音叉水晶振動子 5-8

外形1.5mm及び2mmの表面実装タイプの超小型薄型音叉水晶振動子で従来品より約1/2の実装面積で、超省資源型の製品です。携帯電話、PHS、PDA、カメラ一体型VT、デジタルカメラ用の時計及びマイコンクックなどに使用されています。

ICP質量分析装置 5-9

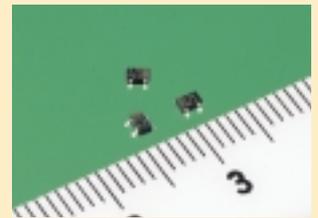
環境の有害元素分析装置で、その高い信頼性と簡易な操作性から、大学や企業の研究施設、生産ラインなどで広く用いられています。

ルミノーバ 5-10

新発光材「ルミノーバ」は、放射性物質を含まず、太陽光や蛍光灯を数十分あてただけで、暗やみで6～8時間は光り続ける夜光物質です。全7色のカラーバリエーションからアクセサリー(～流氷の天使クリオネ～)から各種表示に適した商品です。



5-1



5-2



5-3



5-4



5-5 WX-1110



5-6 国際エネルギー
プログラム登録商品

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。



5-7 Ruputer [MP110]



5-7 Ruputer Pro [MP120]



5-8



5-10



5-9



グリーンライフ ～環境を守る企業の生活～

環境に配慮した企業生活に向けて

製造工程や製品だけでなく日常の企業生活の中でも環境に配慮していくことが不可欠です。私達は一人一人ができることを推進しています。

生ゴミ処理 6-1

1996年4月、本社幕張ビルに「大型生ゴミ処理機」を導入し、社員食堂から出る生ゴミの減量化を実施しています。また、関連会社の中でも小型の電動リサイクラーで有機肥料化して構内の草花を育てています。また、厨房の食材廃棄や社員の食べ残しを減らす啓蒙活動も行っています。



6-1



6-1

紙使用量の削減 6-2

イントラネットの利用促進や両面コピー・裏紙使用の促進により紙使用量の削減を進め、1998年度は紙使用量112トンで1993年度に比べ約27%削減。立木に換算して約820本分の森林保全効果をだしています。これは「紙資源の有効活用」の意義を社員一人一人が認識し、行動した成果です。



6-2

個人のゴミ箱廃止 6-3

個人用のゴミ箱をやめ、10～20人に一ヶ所の割合で3点セット(リサイクルボックス・紙ゴミ・ビン&缶)と機密書類の回収ボックスを設置し、分別回収を徹底しています。

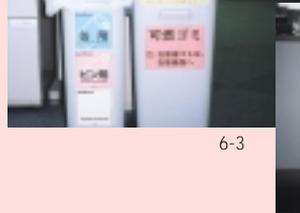


6-3



牛乳パックの回収 6-4

SIIグループ事業所では、自動販売機や売店で社員が購入する飲料容器のうち牛乳パックの空容器を解体・洗浄・乾燥を行って回収、リサイクルをしています。このリサイクル作業は、労働組合が主体となって活動を進めています。



6-4

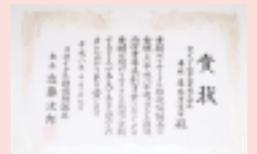
古紙リサイクルの象徴(クリーンアロー号) 6-5

古紙の完全リサイクルにも積極的に取り組んでいます。1993年8月に古紙回収専用バッカー車(クリーンアロー号)を導入し、本社・幕張ビルと近隣(京東地区)事業所を巡回、個人のゴミ箱を撤廃して分別を徹底、機密文書も大型シュレッダーで一括処理し、年間合計1400トンもの古紙を製紙会社へおさめています。立木換算で約8,000本を救済しています。

1996年10月リサイクル推進協議会会長賞を受賞しました。



6-5



「グリーン購入の推進」に向けて

環境への影響の少ない商品や部材を優先的に購入することで、最近、環境に配慮した商品を購入する消費者や有害物質を含む材料を排除する企業が増えています。SIIグループは、グリーン購入ネットワークに参加し、グリーン購入の積極的な推進で対象品目の紙、文具類から生産用資材へと対象範囲を広げています。

再生紙使用率の向上 6-6

1993年8月から再生紙の利用を積極的に進め、現在コピー用紙はすべて再生紙を使用しています。また、社用せんや封筒、各種伝票類を合わせた事務用紙の合計でも、現在94%は再生紙となっています。また、グリーン購入の一環として1997年9月から白色度を80⇒70に落としたコピー用紙に全面移行しています。(古紙再生時の漂白剤の減量化のため)



6-6

エコロジー商品の使用(文具類) 6-7

SIIグループでは、調達企画部門と環境対策推進部門が協同して、事務消耗品も環境保全を考慮した「エコロジー商品」への切替えを進めています。エコロジー商品への切替対象リストを発行し、当社の標準使用品としています。

※ エコー用紙、ボールペン、シャープ替芯、フラットファイル、ノート、伝言メモ、タックメモ、カードケース、ソフトカードケースなど



6-7



6-8

非木材紙の使用 6-8

森林資源保護のために、SIIグループでは、名刺を非木材紙に1996年7月から切り替えました。非木材紙とは、原料が草類・サトウキビ・海藻・シーズの端切れなどがあります。代表的な「ケナフ」(ハイビスカスの仲間であオイ科の一年草)の名刺にしました。ケナフは二酸化炭素をよく吸収するため、地球温暖化防止にも役立っています。

グリーンライフ ～環境を守る市民の生活～

「ライフスタイルの見直し・実践」に向けて

私達は企業人であると同時に、一市民でもあります。日常の生活で環境を意識した行動をとりできるだけ環境を守るように生活することが求められています。アイドリング・ストップや簡易包装、ノーぼい捨て、そして家庭の省エネ、洗剤や汚水処理を意識しての水まわり仕事、完全分別資源リサイクルなど、一人ひとりが意識を改革し、少しでも実行していくことこそ重要です。「たった一人がやっても」の考えから「一人であっても」へ変えていきたいものです。

アイドリング・ストップの普及啓発運動 7-1

1997年6月より、社用車のみならず4,000台のマイカー通勤者にも協力を呼びかけ、全社員による啓発普及の運動を展開していきます。CO₂の排出は、地球温暖化の大きな原因となっています。SIIグループの各事業所では、社用車やリースバス、駐車場周辺にステッカーを貼ったりの取り組みを立てPRしたり、搬入業者にも協力を呼びかけています。

環境家計簿の啓発 7-2

地球温暖化対策は会社だけでなく、家庭生活系で消費するエネルギーが全体の50%にのぼり、温室効果ガスCO₂の削減には家庭でのライフスタイルを見直すことが重要になっています。光熱費等、家計費節約のヒントになる環境家計簿を用意しています。

環境保全地域活動 7-3

地球環境と調和する企業を目指し、物づくりに努めるとともに近隣地域社会とのコミュニケーションのため、「エコイベント会場」提供、「工場見学」受入れ、「ゴミゼロ運動」の一環として道脇際・河川敷などのポイ捨てゴミの収集作業などを行っています。



7-1



7-2



7-3



環境関連サービス

株式会社シティ・サービス 8-1

建物・設備・テナントなどのビル管理、環境施設管理・廃棄物の管理を総合的に
行っており、地球環境保全の視点から省エネ、生産効率、安全な作業環境の追
求に取り組んでいます。

セイコーアイ・テクノリサーチ株式会社 8-2

機器分析・EMI測定(不要電磁波測定)をはじめ、環境分析の受託・技術コンサル
ティングを行っており、環境関連の分析需要の高まりにあわせてさらなる技術対
応力向上に取り組んでいます。

エスアイアイ物流センター株式会社 8-3

梱包、搬送、機器の設置・調整、倉庫管理の物流システムを一貫して行っており、
梱包(材質・強度・リサイクル性など)は、包装管理士の専門技術者が環境に優し
いオリジナルな梱包設計をしています。

パッキング時に使用する緩衝材も圧着から衝撃吸収方式を採用し、搬送時の衝
撃等に万全を期しています。

環境保全活動の社内表彰制度 8-4

SIIグループは、毎年4月「SII大会」を開催しています。そのプログラムの中
で年度の業績優良者表彰が行われます。各ジャンルの表彰とあわせ、環
境保全活動に関し、顕著な実績をあげた事業所を特別表彰しています。

※環境ISO14001認証取得

SIIグループの広報と啓発運動 8-5

SIIグループでは、商品開発・設計、製造、販売、サービスなど企業活動の
全ての分野で、環境保全活動を推進するとともに、その取り組みを外部の
人々に知っていただくために、様々な活動を行っています。

| | |
|----------|---|
| 広報資料 | SIIグリーン・プラン(環境保全自主行動計画兼年次報告書) |
| 環境情報発信 | 外部機関からの環境関連アンケートへ回答 社外の要請による講演実施 異業種間の環境交流会参加 |
| 啓発普及活動 | アイドリリング・ストップ運動の呼びかけ |
| 協力企業との協調 | 環境方針の連絡など環境保全活動の協力要請 納入品に関する環境情報交換 |



8-1



8-3



8-2



8-4



8-5



環境保全の重点取り組み課題と環境保全行動計画・実績

重点取り組み課題

| | 目 標 | 2010年に向けて |
|------------|--|---|
| 省エネルギーの対策 | 二酸化炭素(CO ₂)換算排出量を2000年までに1990年の水準にする。 | 省エネから小エネ(抜本的な省エネ)へ発想転換し、90年より削減する。 |
| 廃棄物の削減 | オフィスや製造現場から出る生活、産業系廃棄物の減量化・再資源化に努め2000年までに1992年の水準より-10ポイントする。 | ゼロ・エミッション(最終廃棄物ゼロ)の早期達成へ発展させる。 |
| 有害物質の削減 | トリクロロエチレン、塩化メチレンの減量化全廃に積極的に取り組み1999年末に全廃する。 | PRTR制度に沿って化学物質管理・削減をはかる。 |
| 紙資源の有効活用 | 紙資源の有効活用と再資源化に努めて2000年には1993年の水準より、 事務用紙の削減:100 75 再生紙使用の向上:66% 95% 古紙リサイクルの向上:19% 50%にする。 | 100%再資源化を目指す。 |
| 環境に配慮した製品化 | 2000年までに、製品環境アセスメント実施率を100%にする。 | LCA手法の定着を進め、小型軽量化・省電力・長寿命・無害のグリーン製品を提供する。 |

古紙リサイクルの定義 $\text{古紙リサイクル率}(\%) = \frac{\text{古紙}}{\text{古紙} + \text{他の可燃物}} \times 100$

環境保全行動計画と実績

省エネルギー - (地球温暖化防止) 指数1 = 209トン・C



冬季の徹底した暖房温度引き下げなどにより、前年より削減することができました。

廃棄物削減 指数1 = 34.7トン



汚泥や廃液の再資源化が進み、大幅に廃棄物を削減できました。

事務用紙削減 指数1 = 1.53トン



両面コピー、裏紙使用、イントラネット活用により事務用紙の削減ができました。

再生紙使用の向上



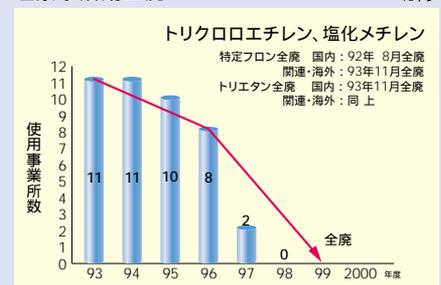
SIIグループの全事業所の事務用紙の購入管理が徹底し、向上することができました。

古紙リサイクルの向上



徹底した分別が進み、ポイントが向上しました。

塩素系溶剤全廃 45トン



98年度末で使用事業所数はゼロとなり、使用量も99年度全廃達成が確実にになりました。

会社概要

| | | | |
|-------|---|-----|--|
| 会社名 | セイコーインスツルメンツ株式会社 | | |
| 設立年月日 | 1937年(昭和12年)9月7日 | | |
| 資本金 | 10億円 | | |
| 決算期 | 3月(年1回) | | |
| 年間売上高 | 1,925億円(1998年度) 2,170億円(1997年度) 2,006億円(1996年度) (セイコー精機289億円を含む) | | |
| 売上構成比 | コンポーネント事業 | 29% | |
| | 民生品事業 | 26% | |
| | 生産財事業 | 22% | |
| | 情報関連事業 | 17% | |
| | その他 | 6% | |
| 従業員 | 5,700名 | | |



民生品事業

ウォッチ
電子辞書
音響機器など



生産財事業

分析・計測機器
FA・工作機械
磁気軸受式ターボ分子ポンプ
インテリジェントロボットなど



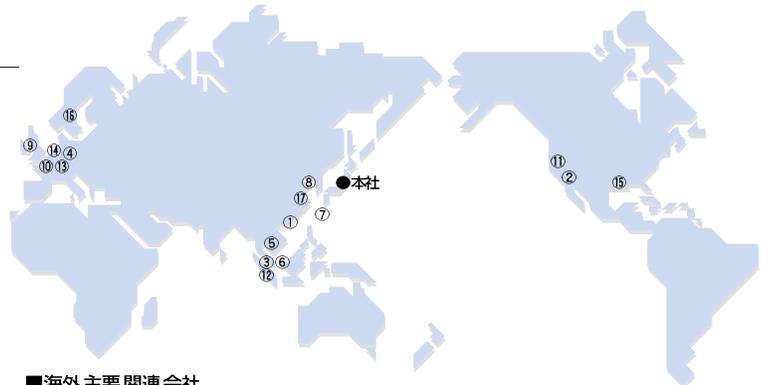
コンポーネント事業

CMOS IC
液晶ディスプレイ
水晶振動子
マイクロ電池
光ファイバコネクタ
カスタムモジュールなど



情報関連事業

コンピュータ周辺機、
CAE/CAD/CAM システム
ネットワークサーバ
オーダリングシステム
携帯情報端末など



海外主要関連会社

- ① Seiko Instruments (H.K.) Ltd. (香港)
- ② Seiko Instruments USA Inc. (アメリカ)
- ③ Seiko Instruments Singapore Pte. Ltd. (シンガポール)
- ④ Seiko Instruments GmbH (ドイツ)
- ⑤ Seiko Instruments (Thailand) Ltd. (タイ)
- ⑥ Asian Electronic Technology Pte. Ltd. (シンガポール)
- ⑦ Seiko Instruments Taiwan Inc. (台湾)
- ⑧ Dalian Seiko Instruments Inc. (中国)
- ⑨ Seiko Instruments U.K. Ltd. (イギリス)
- ⑩ Seiko Instruments France S.A.R.L. (フランス)
- ⑪ Seiko Instruments Development Corp. (アメリカ)
- ⑫ Micro Device Singapore Pte. Ltd. (シンガポール)
- ⑬ Société de Mécanique Magnétique, S.A. (フランス)
- ⑭ Seiko Instruments Europe S.A. (ベルギー)
- ⑮ SII Marketing International Inc. (アメリカ)

海外駐在員事務所

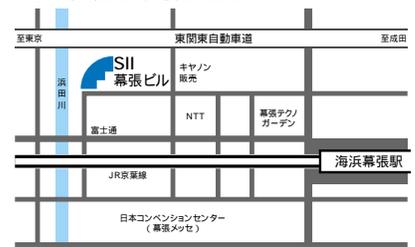
- ⑮ スウェーデン駐在員事務所(スウェーデン)
- ⑰ 北京駐在員事務所(中国)

ISO14001 認証取得事業所



本社(幕張) / 93年優秀先端事業所賞を受賞 (日本経済新聞社主催)

高度情報化社会に対応し、地球環境の保全、生産性の向上、快適な作業環境の実現などに成果を上げた先端的な事業所として評価されました。





活動シンボルマーク